

日本農業法人協会の会員へ熱いエールを贈る

東京大学名誉教授
社団法人日本農業法人協会理事
今村 奈良臣

全国の農業法人のトップ・リーダーの皆さんへ、特にこれから農業法人を担おうとしている若き経営者にエールを送りたいと思う。

1. Challenge, at your own risk!

「挑戦と自己責任の原則」と私は訳している。今から2年前、アメリカ・ウィスコンシン大学に客員研究員として行っていた時、中西部の農民を数多く訪ね、農場継承の実態調査をした時にこの一言を聞き、胸に響いた。

アメリカでは父が引退を決意した時、子ども達を集め誰が農場を継ぐか決定する。「私が農場を買います」と申し出た子に農業の経営権は譲られる。借地農であるから、その種地たる自作地を買うと申し出る権利は、長男でなくても次男でも次女でもよい。その時発せられたのが、この言葉で重い。日本はやる気がなくても長男が、家督、家産（田畑山林家屋敷）、家業（農業）の三つを継ぐ慣習が続いた。アメリカがすべて良いとは言わないが、アメリカ農民の魂には勉強しよう。

2. Boys, be aggressive!

これを私は「自らの新路線を切り拓き積極果敢に実践せよ」と訳している。明らかに明治の初め札幌農学校を辞しアメリカに帰国するに当りクラーク先生が発した“Boys, be ambitious”（青年よ、大志を抱け）をもじったものである（なお、Boysは一般名詞で女性も指す。男女差別語ではない。）。

今から45年前、私が東京大学大学院を終了し、（財）農政調査委員会という研究所に入った折、そこの理事長をしていた故東畑四郎氏（農業者大学の創立者、農林事務次官、日銀政策委員等を歴任、私どもの先生であった故東畑精一東大名誉教授の実弟）が私に言われた言葉で、身が引き締る想いがした。皆

さん方と歩いた道は私は違うが、この言葉の精神を踏まえ、先人未踏の研究分野に分け入り、農政改革等でも全力をあげて努力してきたつもりである。どうか、特に若い次代を背負う皆さん、この言葉を胸に刻み頑張って未踏の分野を切り拓いてもらいたいと熱望する。

3. 「多様性の中にこそ、真に強靱な活力は育まれる。画一化の中からは弱体性しか生まれてこない。」「多様性を真に生かすのはネットワークである。」

この考え方は、私の信条とするところである。とりわけ、農業ほど多様性に富んだ産業はない。日本をみても、亜寒帯から亜熱帯に至るまで、作物は米から花、きのこに至るまで、さらにその経営者も高齢者から青年に至るまで、実に多様性に富んでいる。こういう中から真に強靱な活力は育まれるものだとは私は考えている。こういう実態を無視して、画一化を図ろうとするような農政は必ず破綻する。しかし、重要なことは、多様性を真に生かすのがネットワークである。ネットワークも多様性であってよい。その中で、日本農業法人協会に結集する熱き心に燃えている農業経営者のネットワークが、これからの時代、中核になり、日本農業と農政を方向づけ、21世紀日本農業の展望を指し示す強固な組織になってほしいと熱望する。

4. 「農業の6次産業化ネットワークを推進しよう」

私は14年前に初めて全国に向けて「農業の6次産業化」を提唱した。当初は 1次 + 2次 + 3次 = 6次産業という提案であったが、2年後に $1 \times 2 \times 3 = 6$ というように掛け算に変えた。1次産業が0になれば $0 \times 2 \times 3 = 0$ という

警鐘である。6次産業化とは、農業は単に農産物を作るだけでなく、多様な食品加工（2次産業）、多様な販売戦略（3次産業）を通して、付加価値を増やし、農村に新たな就業の場、雇用の場をつくり、所得の向上をはかろうという提案がある。こうして、農業・農村と消費者、つまり、農と食の距離をいかに縮めるか、そのために、いかに多様な、かつ斬新なネットワークを作るか。会員の皆さん、広い視野にたって是非考え、実践してほしい。例えば、次代を担う小学生の修学旅行、農業研修プログラムを組織するのも農業、農村の6次産業化の一環である。

5. 「『時間軸』と『空間軸』という2つの基本視点を踏まえて、近未来の明確な展望を描こう」

私は難問に直面した時は、この視点で考えることにしている。この50～60年の歴史の画期を踏まえ、世界、欧米、アジア、そして日本各地の空間軸を踏まえて、5～10年の近未来の展望を描く努力をしてきた。会員の皆さんも各自この視点から自らの地域と、自らの経営の将来像を大胆に描いてほしい。

〔追記〕URL:<http://www.ja-so-ken.or.jp>にアクセスすれば「所長の部屋」に私の論稿が毎週出てきます。必ず参考になると思います。

法人協会ニュース

「第19回総会」無事終了しました！
ご協力ありがとうございました！

昨日、本日開催の「第19回総会・夏季セミナー」が無事終了いたしました。会員や関係団体の方々、400名近くのご参加を賜りました。

また、委任状も1,187名からご提出賜り、ご来場の会員を含め3/4の出席を頂きました。会員の皆様、都道府県協会事務局の皆様のご協力に心から御礼申し上げます。

今回の総会では北海道の谷口会長に議長をお務め頂き、議事を進めていただきました。

議案では、平成19年度の事業報告、収支決算の他、役員補充・選任、住所の変更についてお諮りし、全て承認いただきました。



今村雅弘農林水産副大臣の祝辞風景

役員補充・選任では、故小島正興理事のご後任として日本経団連の立花 宏参与に、また今月いっぱいをもって退任される野村俊明専務の後任として、農林漁業金融公庫顧客支援部副部長の紺野和成氏にご就任いただくこととなりました。

議案承認の後は、ビジョン行動計画の進捗状況について、各担当の役員から報告を頂きました。

最後に、岩手・宮城内陸地震の状況について、岩手の石川会長と宮城の伊藤会長から報告いただきました。また、総会終了後は義援金を募りました。本地震への協会の対応については、26日に会員選出役員会を開催し、募金口座を設けること、被災された会員企業等に対して関係機関に対する政策・金融面での救済措置を要望することとしました。

募金口座については、来週改めてご案内申し上げます。

本日のトップセミナー「原油高騰」をテーマに、野口秀行氏よりお話を頂きました。これは非常にバラエティのある内容の講義で、あっという間の 時間半でした。

ご協力を頂きましたことを、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

アグリビジネス経営塾 第360号

本紙に関するお問合せは下記までお願いします。

社団法人日本農業法人協会

(HP <http://www.hojn.or.jp/>)

TEL:03- 5156- 0365/ FAX:03- 5156- 0366

MAIL: jku@hojn.or.jp

© (社)日本農業法人協会 2007

本紙掲載記事の無断転載を禁じます。